



土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 539
発行責任者	所長 橋本 勇治
発行日	平成30年 5月10日
題字	山田 恭正 教育長

「1年の計は春にあり」

土岐市教育研究所長 橋本 勇治

12月31日と1月1日。「大晦日」と「元日」。1年の中で、このたった1日の違いがこれほど意識されるときはありません。古来より一つ一つの「節目」を大切にしてきた私たちに、日々の生活に追われる毎日の中で、1年という人生の単位を強く意識させてくれる、欠かせない「節目」です。そして、他の「節目」同様、私たちの人生を豊かにしています。

学校にとっては3月31日と4月1日。世の中には気候や風土、風習、暦などを拠り所とした「節目」が数多く存在しますが、私たちの学校も例外ではなく、独自の文化を守り育ててきました。6・3・3・4年の学制、1年ごとの学年、2期か3期の学期、月、そして学校行事など、大切なものばかりです。つくづく、その有難味を感じます。中でも、この年度の区切りは、正月以上に卓抜な「節目」であることは言うまでもありません。

この職に就いて、改めてこの「節目」の有難味を噛みしめている私にとって、入学式への参列は格別なものがあります。過日の入学式でも、「節目」にふさわしい、清々しい思いをさせていただきました。

それは、新5・6年生児童の姿によるものです。

彼らは、ただじっと座っているだけではありませんでした。もちろん、どの児童も一糸乱れぬ姿勢で、不必要な頭の動きどころか視線の乱れさえありません。儀式の厳粛な雰囲気や全身で感じ、その意義や自分の役割を十分理解して、自ら意思ある動きをしているという風でした。粛々と進み、次第は新入生を歓迎する歌の披露となりました。「いよいよ自分たちの出番！」と言わんばかりに、満を持して登場した彼らの合唱は、心からの歓迎の気持ちだけでなく、上級生としての自覚や決意が込められた、聴くものに響く歌声でした。そう言えば、次第冒頭の校歌の時に、この小学校の卒業生である来賓の方が「懐かしい。改めてよい校歌だと思う。

思わず大きな声で歌ってしまった。」とつぶやかれたのも、彼らのお手柄だと感じています。

推察するに、これは一朝一夕につくり出せる歌声ではありません。当然、昨年度中に、また、3学期には、さらに当日も、重点的に先生方の指導があったことなのでしょう。新学年の初日から、新しいクラスメートと出会ったばかりで合唱するのは、子どもたちにも、先生方にも不安があったはずですが、それを払拭するための指導は、単に、合唱の技術指導だけではなく、卒業式には卒業式の、入学式には入学式の意義や値打ち、高学年としての果たすべき役割などが繰り返し話されたに違いありません。だから、彼らには、一人一人が自分で決めた願いや目標、自覚、決意、約束のようなものがあり、それが歌声に込められたと感じるのです。それが聴く者の心に響くのだと。

大切な「節目」を迎えています。1年の計はこの春にあります。子どもたちに、願いや目標などを自分で決めさせ、自らの姿で表すことで決めたことに責任をもたせる指導がとても大切だと私は思います。まだ、十分間に合います。



『暑くて重い！』

撮影者 土岐津小学校

渡邊 草太 先生

積み上げと積み重ね

土岐市教育長 山田 恭正

新しい年度が始まりました。真新しいランドセルを背負った一年生の姿を見るたびに、「この子たちのために…」と心を引き締めているこの頃です。

遅くなりましたが、今年の“教育とき”で「土岐市のミッション」と題して先生方の行動指針を募りました。150人を超える先生方から、すばらしい指針をいただきました。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

最も多かった行動指針を5項目紹介します。

- ①気持ちの良いあいさつをします。
- ②いつも笑顔で接します。
- ③生きて働く力を付ける授業づくりをします。
- ④楽しい学級・学校づくりをします。
- ⑤子どもの良いところを見つけ、認めていきます。

自分の行動指針をしっかりとっていただき、すばらしい教育実践に励んでください。

さて、今回は、「積み上げと積み重ね」と題して、私たちの取組を考えてみたいと思います。

大ざっぱな言い方をしますと教育行政は主に「積み上げ」、学校・園の取組は主に「積み重ね」のイメージで捉えようということです。

市の教育委員会では、喫緊の課題を含め中長期的な目標をもって、教育施策を打ち立て、その実現のために様々な事業に取り組んでいきます。

例えば、「きめ細かな学校支援事業」は、配慮を要する児童生徒への支援や学力向上に寄与する授業づくりを目的に、また「外国人児童生徒適応支援事業」は、日本語指導の必要な児童生徒への支援など、円滑な教育活動が実現していくための条件整備を行うものです。この条件整備をどのように、どのぐらいの規模で、どんな方法で行うかを毎年検証し、充実した内容にしていきます。その営みが「積み上げ」というイ

メージで展開されます。

一方、学校・園では、主役は子どもたちです。多くの場合、学年の目標を設定し、一年間でどのように育てていくか、その仮説をもって教育実践していきます。

例えば、授業においては、指導計画に沿って毎時間の学習を積み重ね、力を付けていきます。また、学級通信や生活ノートへの朱筆も毎日の積み重ねとなります。

今日の授業はうまくいったかな、今日の子どもへの接し方はよかったかなど、振り返ったり後悔したりしながらも、毎日の地道な実践は、たとえ薄くて、小さな物でも、その繰り返しによって、大きなものになっていきます。そのことが「積み重ね」と言うイメージで展開されることです。

昨年、教育実践論文の募集とは別に、「教育実践記録」の募集を初めて行いました。21点もの応募があり、その中には、一年間で積み重ねられたクリアファイル数冊の通信、授業での学習プリント等々、毎日積み重ねられた成果に感動しました。

教育委員会も「積み上げ」の取組を一層充実させます。先生方も是非、ちょっとしたことでも結構です。毎日の「積み重ね」を意識した実践をしていってください。



「ユメセン」
駄知小学校

『生きる力を育む校長会』

土岐市小中学校校長会長 市岡 敬

1. はじめに

今年も、新1年生が、明るく、元気よく校門をくぐりました。きらきらと輝く瞳は、清らかで、素直で、夢と希望であふれています。ただ嬉しい「おはようございます」は、「よろしくお願いします」の思いと重なりました。「この子達をよりよく育てなければならない。」と決意を新たにむかえた平成30年度ではないかと思えます。

土岐市小学生2955名 中学生1417名 合計4372名の児童生徒数です。一人一人の学びと成長は、それぞれ違うものと思えますが、一人一人がよりよく成長するために、私たちは、不断の努力と支援、そして、教育をしていかなければならないと考えます。

2. 本年度の「土岐市小中校長会」

(1) 願い

「生きる力を育む校長会」

「生きる力」を育むことを目標とした日本の教育は、もう何年も続いてきています。激動する時代の変化の中でも変わらず求められているところです。土岐市教育においても同様であります。どのような厳しい時代となろうとも、子どもたちが仲間とともに協調し、自らの生き方を主体的に切り拓いていくことができるたくましい力を身に付けなければなりません。それは学力であり、豊かな人間性であり、健やかな心身という「生きる力」を育むことであります。そのことを中核に据え、土岐市小中校長会を進めていきます。

(2) 活動内容

①校長の経営マネジメントを確かにし、学校の教育活動を充実させ、子どもに生きる力を育む。

- ・土岐市教育の現状の理解し、具体的な方向

を見出し、積極的な学校運営につなげる。

- ・各校の組織的な教育活動を推進し、先生方、一人一人の指導力の向上を図る。

②学び合い、高まり合う研鑽と校長自身の指導力を向上させ、そして、実行する。

- ・今日的課題の研修と対応

学力の向上、安心・安全な学校、生徒指導（いじめ、問題行動、不登校）、特別支援教育、家庭・地域との連携、教職員の資質向上、不祥事根絶、スリム化等

時代の流れとともに、そして、社会の変化とともに顕著になってきている課題であります。今日的ではありますが、この課題は継続的な意味合いが強いものであらうと考えます。土岐市の教職員全員で取り組み続けなければならない課題とも考えます。

- ・喫緊の課題の研修と対応

「特別の教科 道徳」の運営、小学校外国語教育のあり方、新学習指導要領への移行、コミュニティースクール、小中連携、アクティブラーニング等

今年、即座に対応していく課題です。どう対応していくのか、求められているものです。

③各学校、各会の教育活動を充実させ、土岐市教育委員会と連携をして土岐市の教育の充実を図る。

土岐市の各校長は、土岐市の各員会や会議の担当を受けもちます。それぞれの会がより充実できるよう努力するとともに教育委員会とも十分連携をして、子どもに生きる力を育むための教育活動を推進していきたいと考えます。

3. おわりに

土岐市教育界における「チーム土岐」を土岐市教育関係者全員で意識し、ともに積極的な教育活動を推進していきたいと思えます。土岐市の子どもの成長を願った教育活動を行う私たちは、「チームメイト」であると思えます。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

浅野教室を、先生方・保護者の皆さまの引き出しの一つに

—よりよく適応できる子を目指して—

土岐市教育相談適応指導教室 室長 齋木孝明



先生方の学校に、このイラストにあるような子どもさんや保護者さんはいらっしゃいませんか？

学校では、児童生徒の健やかな成長を願って、保護者の皆さんと連携を図る中で、できる限りの対応をされていることと思います。

将来子どもたちが出会うであろう社会に、よりよく適応することで力を発揮するためには、まず小さな社会である学校に適応しながら、力を発揮できる練習を積むことがベターです。

そんな子どもたちから、ひとたび適応の黄色信号が出たとき、保護者さんはどんなすべをおもちでしょうか？

そして先生方はどんなことを推し進めようと思えるでしょうか。おそらく学校ではケース会議をいち早く開く中で、学校でできること、外部機関と連携しながらできることなどの整理をして対応を開始されることと思います。

そして、連携する具体的な外部機関の絞り込みは、その子の状態像を見て取りながら進められることと思います。そんな時、ぜひ「浅野教室」の活用も選択肢の一つとして考えてみてください。

浅野教室ができることは、次の3つです。

1 教育相談

- (1) 電話相談
 - (2) 来室相談
- ※主に相談員が対応

※詳しくは「『浅野教室』のご案内」をご覧ください。

2 カウンセリング

- (1) 個別カウンセリング
 - (2) グループカウンセリング
- ※木曜日に土岐市カウンセラーが対応



3 適応指導

通所しながらよりよい適応を図り、学校復帰を目指します。 ※指導員が対応

では、保護者さんがお子さんの黄色信号を感じた時、対応のすべの一つとして浅野教室の活用は頭に浮かぶでしょうか。

学校だけでなく、保護者さんも、じかに浅野教室の活用ができる状態であれば、お子さんにとっていち早い対応が実現します。

すでに学校へは、学年・学級懇談会などの機会に、浅野教室のちらしを一言添えて配布いただくようお願いしたところですが、ぜひ学校から保護者さんに発信していただき、浅野教室が保護者さんにとっても対応策の一つの引き出しとして機能するようお力を借りたいのです。

教育相談は便宜的に、開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談、訓育的教育相談に分けられます。学校が重点を置くのは何と言っても開発的教育相談です。

今登校してきている子どもたちが、よりよく適応できるよう指導していただくことが、そのまま不登校を生み出さないことにつながります。学校と浅野教室がそれぞれの機能のよさを生かして対応することで、「学校で過ごすことが楽しい。」と言える子を増やしていけたらと願っています。

最後になりましたが、今年度は学校との連携を昨年度以上に強めながら、不登校の改善や未然防止に努めてまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

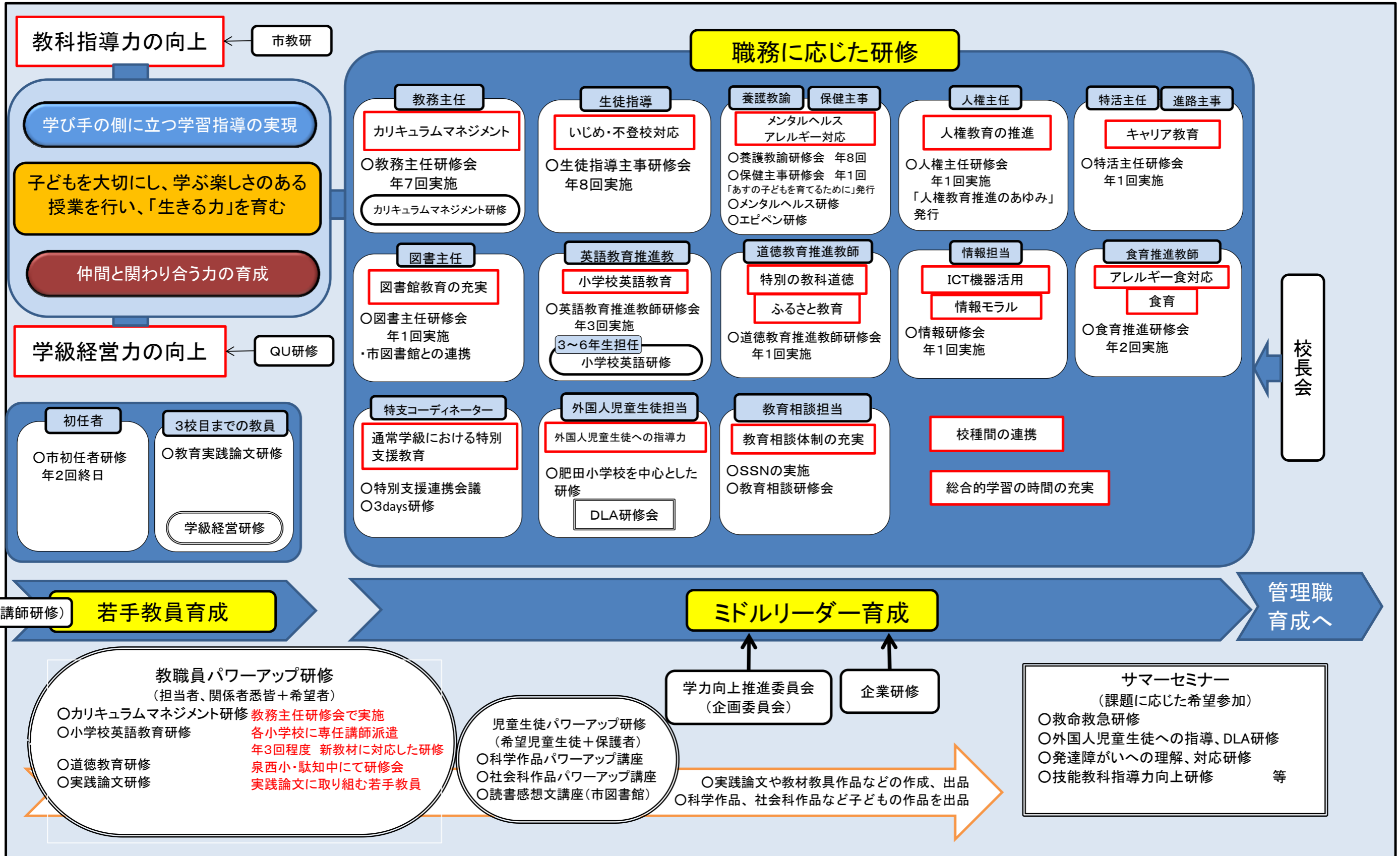


基本方針

教職員としての魅力や実践的指導力を高める
研修の充実

研修の重点

- ① ミドルリーダーの育成を図る研修の充実
- ② 経験・職務に応じた研修の充実
- ③ 今日の課題に対応する研修の充実



平成30年度 土岐市小中学校教育研究会の活動

第1回の活動において、各部会のテーマ及び役員が決定されました。授業研究を中心として活動計画が立案されています。役員さんを中心に、主体的・創造的な部会運営を通して、教科の仲間としての連携を深め、研究の歩みや成果を財産として残していきましょう。

【土岐市テーマ】 子どもを大切に、学ぶ楽しさのある授業を行い、「生きる力」を育む

【各部会研究テーマ】

部 会	研究テーマ	
小 学 校 教 科 研	国 語	一人一人の言語能力をのばす国語科授業の在り方
	社 会	よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習 ～子どもが社会とつながる授業を通して～
	算 数	見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方
	理 科	理科の見方・考え方を働かせ、自然を追求する子を育てる指導の在り方
	音 楽	音楽のよさを感じ、思いを豊かに表現する授業
	図 工	ひとりひとりに「つくる喜び」を ～豊かな心と表現力を育てる造形美術教育～
	家 庭	よりよい生活を創り出す豊かな心と実践力の育成 ～「してもらう自分」から「できる・生かす自分」へ～
	体 育	仲間と共に運動の楽しさや喜びを味わう体育学習の創造
	外国語活動	外国語を通してコミュニケーション能力の素地を養う指導の在り方
中 学 校 教 科 研	国 語	生きてはたらく言語能力の育成
	社 会	主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習
	数 学	学ぶ楽しさを実感させる数学教育の創出
	理 科	見方・考え方を働かせ、主体的な問題解決を通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育てる理科指導
	音 楽	一人一人が表現の深まりを実感できる授業 ～「楽しさ」「確かさ」「美しさ」を求めて～
	美 術	ひとりひとりに「つくる喜び」を ～豊かな心と表現力を育てる造形美術教育～
	保健体育	「運動／集団」学習の効果的な指導の在り方を求めて
	技術・家庭	生活での実践に生かす力の育成を目指した授業
	英 語	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導
小中	特別支援	豊かな生活をめざし、生きる力を共に高め合う子どもたち ～一貫性・柔軟性のある支援体制・支援方法の一層の充実に焦点を当てて～
各 種 研	養護教諭	生活改善のための問題解決能力を育てる保健教育の在り方
	事 務	研修をとおして知識・経験の共有を図り、学校事務の効率化を推進する ～事務主任としてふさわしい資質を身につけよう～
	栄 養	児童生徒が生涯にわたり健康な生活を送るための「食に関する指導」の推進を目指して ～給食と学校教育活動との連携を図った取組を通して～

土岐市小中学校教育研究会 平成30年度 各部会 部会長・役員の皆さん

部会	部会長	学校名	主務者	学校名	世話役	学校名	県代議員	学校名	
小学校 教科 研	国語	古川 直利	下石小	吉岡 由紀子	泉西小	尾崎 城二	泉小	吉岡 由紀子	泉西小
	社会	市岡 敬	土岐津小	平林 尚子	泉西小	加藤 大貴	下石小	高津 宏尚	妻木小
	算数	杉浦 正佳	駄知小	廣島 由美子	泉小	小木曾 欣巳	妻木小	野呂 絹枝	妻木小
	理科	熊崎 克朗	泉小	天野 洋子	泉小	栗野 聖崇	土岐津小	天野 洋子	泉小
	生活								
	音楽	知原 勝成	肥田小	浅野 祐恵	泉小	林 ゆりか	妻木小	安藤 律子	土岐津小
	図工	小栗 祥吾	泉中	日比野 有希子	肥田小	坂田 まさみ	下石小	糸見 真	下石小
	家庭	本多 直也	泉中	長谷川 里美	泉西小	臼井 康子	泉西小	近藤 綾香	泉西小
	体育	楯 博子	妻木小	野々垣 邦彦	泉小	坂田 芳朗	下石小	坂田 芳朗	下石小
外国語活	篠原 徹	濃南小	大野 篤司	土岐津小	松岡 篤徳	駄知小			
中学校 教科 研	国語	田辺 美樹	肥田中	山内 芳彦	肥田中	松葉 円	駄知中	可児 綾菜	泉中
	社会	福田 辰雄	西陵中	北川 慎二	土岐津中	桑原 幹	西陵中	佐々木 武	西陵中
	数学	景山 国博	土岐津中	虎山 泰昌	駄知中	日置 貴大	肥田中	中根 雅弘	泉中
	理科	磯貝 隆	駄知中	棚瀬 敏哉	泉中	小倉 綾乃	土岐津中	棚瀬 敏哉	泉中
	音楽	加藤 美香	濃南中	永井 靖子	肥田中	長谷川 朋子	土岐津中	永井 靖子	肥田中
	美術	小栗 祥吾	泉中	河合 江里	駄知中	小池 智明	泉中	林 裕二	濃南中
	保体	伊藤 策雄	西陵中	稲山 竜太	泉中	各務 博紀	泉中	稲山 竜太	泉中
	技家	本多 直也	泉中	林 祥太	泉中	早瀬 浩孝	土岐津中	吉村 康介	西陵中
	英語	竹中 正仁	濃南中	田中 沙紀	土岐津中	五島 佑	西陵中	田中 沙紀	土岐津中
小中	特別支援	永治 洋子 佐藤 勝也	泉西小 土岐津中	笹岡 桃子	妻木小	奥村 あゆ美 田島 幸司	下石小 肥田中	水野 浩庫	濃南小
各種研	養教	熊崎 克朗	泉小	林戸 久代	下石小	林戸 久代	下石小	土屋 京子	西陵中
	事務	楯 博子	妻木小	塚本 有美子	土岐津小	小野木知絵実	肥田小	塚本 有美子	土岐津小
	栄養	古川 直利	下石小	日比野 友記	土岐津小	鈴木 晃子	土岐津中	日比野 友記	土岐津小

1年間よろしくお願ひします!

「心にひびく言葉」

「考え方」で「運命」をかえる

泉西小学校 校長 永治 洋子

「考え方」に気をつけなさい。それはいつか「言葉」になるからです。「言葉」に気をつけなさい。それはいつか「行動」になるからです。「行動」に気をつけなさい。それはいつか「習慣」になるからです。「習慣」に気をつけなさい。それはいつか「性格」になるからです。「性格」に気をつけなさい。それはいつか「運命」になるからです。大切なのはどれだけたくさんのかをしたかではなく、どれだけ心を込めたかです。

これは、ノーベル平和賞を受賞したマザーテレサの言葉です。この言葉の意味を29年度の卒業

式の式辞で卒業生に伝えました。私自身「考え方」を大切にしてきたかと考えてみると、なかなか前向きな考え方ができなかったように思います。

自分には無理かもしれないと思うことに対し、「できるかも」という気持ちをもつことは難しいことです。しかし、この言葉を知ってから「自分の考え方」一つで、「運命が換えられる」なんて凄いことだと思えるようになりました。言葉は必ず自分に返ってきます。行動もまた自分に返ってきます。一瞬一瞬の行動に、どれだけ心を込めることができるかが今の私の課題です。

掲 示 板

本年度もよろしく申し上げます

【教育研究所】〈前列左より〉

主 任 河合 広映
所 長 橋本 勇治 (学校教育課課長)
指導主事 長瀬 久美子
〈後列左より〉
指導主事 片田 誠 (学校教育課管理主事)
嘱託指導主事 安藤 篤
事務職員 伊藤 のり子



【ALT】

〈左より〉
イザベル
マックファーソン
ウィリアム
スワン
ヴィクトリア
シークマン



【浅野教室】

〈左より〉
室長
齋木 孝明
相談員
岩崎 秀子

